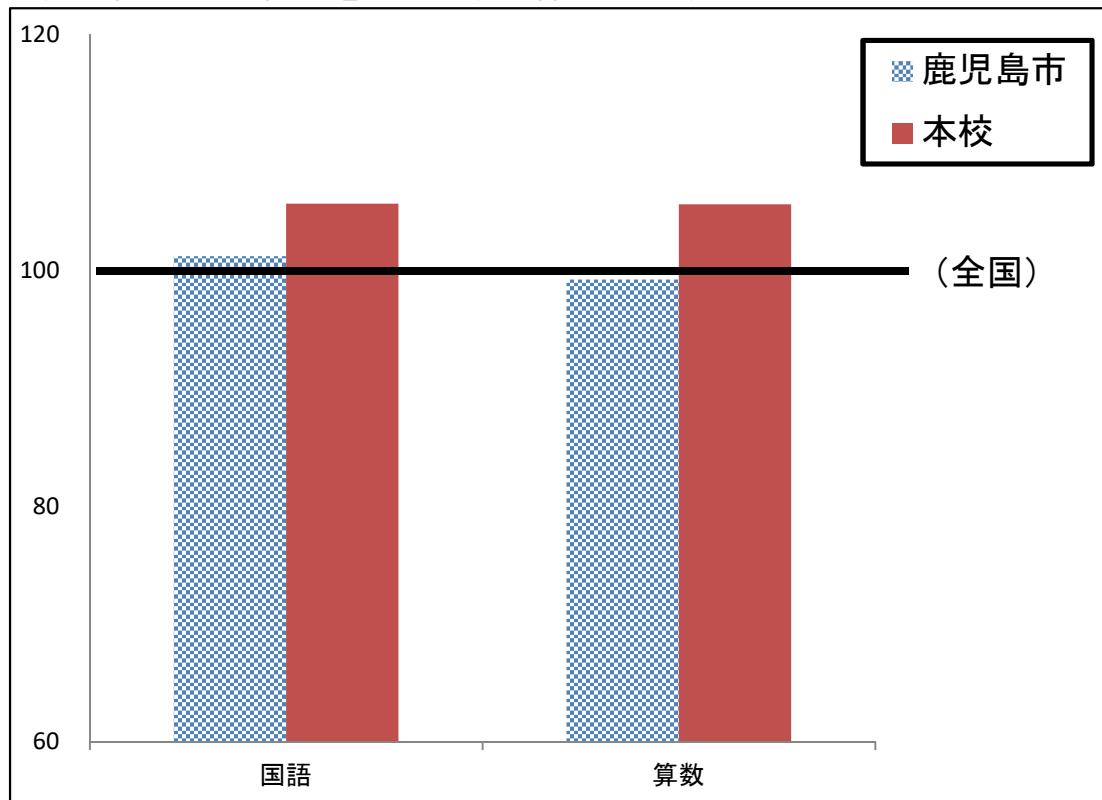


令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

清水小学校

1 自校・市・全国の平均正答率の比較

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

〈国語科〉

全体的に「書くこと」に課題が見られます。特に図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが苦手を感じる子供が多くみられます。これは、授業や家庭学習の中で、自分の考えを整理して、筋道立てて、文章を書く経験が少ないことが理由として考えられます。

そこで、課題を解決するために、授業では、資料から得た情報を、まず、思考ツール等に視覚化し、比較・分類したり、適切に関連付けたりしながら、文章を組み立てることができるような指導を行ってまいります。また、各学年の発達段階に応じた語彙表を作って、その言葉を使って文章を書く練習をさせたり、わからない言葉をすぐに辞書やタブレットを使って調べたりする取組も常時、設定します。さらに、友達に自分の考えを伝える時に、相手意識をもってよりよい表現ができるように、自分の考えを推敲する習慣を身に付けさせる取組もしてまいります。

〈算数科〉

全体的に「図形領域」に課題が見られます。特に、正三角形の性質を活用した応用問題を解くことや、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を記述することが苦手な子供が見られます。

そこで、課題を解決するために、授業では、図形を構成する要素やそれらの位置関係を、実体験の中で押さえることが大切です。具体的には、操作活動の中で、実際に図形を作り、出来上がった多様な形をグループや全体で比較して、協働的に考えを導き出す活動を設定してまいります。また、授業の振り返りでは、navima等の良問に継続して取り組み、問題に慣れるようにします。

〈児童質問紙より〉

①「自分にはよいところがあると思いますか」という質問では、自己肯定感の高まりが見られましたが、全国との差は広がっています。また、どちらかといえばあてはまらない、あてはまらないと答えた子供が約2割おり、自己肯定感を高める取組を今後も学校や家庭が連携して、継続して行う必要があります。

②国語の勉強が好きと答えた子供が56%、算数の勉強が好きと答えた子供が54%、英語の勉強が好きと答えた子供が57%であり、勉強は大切だと分かっているが、興味・関心がもてず、苦手だと感じる子供もいます。そこで、学校では、授業改善に取り組み、対話活動を行って協働的に学んだり、タブレットを使ったりする活動を多く取り入れることで、子供が興味・関心を高める授業を目指します。